(2) 進路の決定が「学力偏重」から「自己の適性」などを踏まえ、将来の見通しを持って出来るようになった。

平成四年度には、一〇四名が高校を受験し、十七校に進学した。前年度と比べると、その進学学科も多様で、生徒達が自分に適した学校に進もうと努力した成果と受けとれる。(資料9参照)

(3) 体験することの重要性を理解し、自分はどんなことにむくのかということを真剣に考えるようになってきている。

(4) 将来のことについて進んで話すようになり、自分の進路を自分で選択しようとする意識が高まってきた。

2、教師の変容

(1) 教師一人一人が、進路指導についてよく研究するようになった。教師自身の意識が「生き方」を重視し、生徒一人一人の長所を見出し、それを生かす道を選択できるよう支援する方向に変わってきた。

(2) 授業の手法や進路相談について研究を重ねた成果が表われつつあり、学級担任のすべてが、積極的に授業に取り組めるようになってきた。

資料8　検証授業

	回	月日	学級	題材名
平成四年度	第1回	9月21日	2年1組	職業についての見方・考え方
	第2回	11月5日	3年1組	進路決定に向けて
	第3回	11月25日	1年1組	私の個性
平成五年度	第1回	5月14日	1年2組 2年3組 3年3組	将来の希望と進路の学習 職業と産業 卒業生の体験に学ぶ
	第2回	6月21日	1年3組 2年1組 3年2組	進路の学習 職業の内容と特色 卒業生の体験に学ぶ
	第3回	7月9日	1年1組 2年3組 3年1組	働く人々 適性と進路 体験入学について

3、地域・保護者の変容

生徒の将来を職業と結びつけて考えるようになり、家庭での進路の話し合いが多くなされるようになってきた。また、職場体験を通して、地域も生徒の進路に関する活動に協力的になってきた。

4、今後の課題

(1) 三年間を見通した学級づくりの充実と本来の進路指導の確立

(2) 職場体験の継続と体験学習の多様化（生徒会活動、学校行事、ボランティア活動、福祉活動等）

(3) 卒業生への追指導の継続と進路指導への活用

(4) きめ細かな進路相談による生徒保護者への援助

(5) 進路選択資料の整備、充実

(6) 家庭や地域への一層の啓蒙と学校の教育活動への呼びかけ

資料9　卒業生の進路

年度	平成4年度		
進路別＼性別	男	女	計
学法石川高	19	26	45
県立石川高	8	15	23
緑が丘高			
安積高	2		2
安積女子高		1	1
郡山高			
郡山北工高	6		6
日大東北高	3	3	6
郡女大附高			
須賀川女子高			
尚志高		2	2
岩瀬農業高		1	1
白河女子高		2	2
郡山女子高			
塙工高	3		3
郡山商業高	1		1
東白農商(鮫)	2	1	3
桜の聖母		1	1
磐城女子高			
福島工専	2		2
磐城一高			
勿来高			
平商業高			
湯本高		1	1
小野高	1		1
清陵情報	2	1	3
県外の各高			
技術専門校	1		1
就職・家事	1		1
計	51	54	105
進学率	99%		